つ な が り
～やさしく　かしこく　たくましく～

第5号
令和7年１月10日発行

山口大学教育学部附属幼稚園

正月遊びに見られる挑戦することと子どもの育ち

副園長　　高　田　和　宜

新しい年を迎え、３学期の始業式で正月遊びが紹介されました。駒回しや羽根つき、竹馬やまり付きなど先生たちが挑戦する姿を楽しそうに見ていた子どもたちが、取り組み始めています。正月遊びの多くは、すぐにできるものではなく、何度も繰り返し挑戦することで少しずつ上達していきます。簡単にできてすぐ楽しいという遊びではない分、正月遊びのような挑戦し続ける遊びでの学びや育つものがより豊かなものになっていくのは想像できることだと思います。そのような遊びに向かっていける子どもの姿を支えているものは何かと探ってみていると様々な大事なことに気づかされます。

駒回しの場の一日目の様子です。正月遊びの紹介の後すぐに男児ら４，５人が集まってきました。その中には駒回しを家でしたことがある子どもや兄弟がしていたのを見ていたり、少しやったことがあったりする子どもが多くいましたが、その中に全く初めての子どももいました。年長児は紐ゴマを個人もちにしているので、自分がもらった駒に紐を巻き付けるところからスタートです。紐の巻き方がわからない子どもは保育者に巻き方を見せてもらったり、途中まで手伝ってもらったりしながら少しずつ自分で挑戦していました。少し経験のある子どもも紐を巻くことにとても時間がかかっていました。紐が緩んでは締め直しを繰り返す子どものそばで、保育者が駒を回せて見せます。子どもたちは「凄い」ととても興味をもって回る駒を見つめています。自分で紐が巻けた子どもに保育者が手を添えて一緒に回すこともしました。回ると「今度は自分でする。」と言ってすぐに駒を手に取り自分で紐を巻きつけていきます。紐を保育者に巻いてほしいと言っていた子どもが、始めだけ少し巻いてほしいと言い、頑張って巻き始めていました。全く初めてだった子どもの駒が勢いはありませんでしたが回りました。自分の駒が回ったことに驚いて小躍りするほど喜びました。その姿を見て周りの子どもたちのやる気が上がっていくのが紐を巻く姿に感じられました。友達が駒を回した姿を見て「自分もできるかも」と感じられたのでしょう。少しだけ経験のある子どもも時々駒が回るようになりました。もう一人の初めての子どもの駒がさかさまでしたが回りました。「回ったね」と友達に言われ、ガッツポーズをして喜んでいました。まだまだ１日目で駒が偶然回る程度の上達具合でしたが、その後駒回しに参加する子どもが増えていきました。

駒が家にあったとしてもここまで粘り強く取り組めたのでしょうか？かっこよく駒が回せるモデルがあることが子どもたちの動機付けになっていたでしょう。紐を駒に巻くことが大変だという気持ちを共有している仲間が傍で一緒にしていることも「粘り強く頑張る」ことを支えてくれたことでしょう。駒が回ったのは偶然ではありましたが、駒が回ったという事実が「自分もできそう、自分も駒を回したい」という意欲を押し上げたのは間違いないでしょう。そして駒が回った時に一緒に驚いてくれて喜んでくれる仲間がいることがさらに自己肯定感を上げてくれています。

駒回しの場以外にも子どもたちのこのようなかかわりが生まれていくことと思います。これから始まる３学期の保育参加や土曜保育日などでこのような子どもの姿を見守り支えていただければと思います。正月遊びに挑戦する姿の中にその年齢なりの友達とのかかわりの良さや育ちが感じられることでしょう。自分で興味のあるものを選んで、存分に取り組んでいくことで賢くたくましくなっている姿を共有できればと思います。